

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772100048		
法人名	社会福祉法人 与勝福祉会		
事業所名	グループホームやすらぎの家		
所在地	沖縄県うるま市勝連南風原4914番地		
自己評価作成日	平成24年7月2日	評価結果市町村受理日	平成24年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=4772100048&amp;SCD=320&amp;PCD=47">http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=4772100048&amp;SCD=320&amp;PCD=47</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年7月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○事業所は小高い丘の上に位置して金武湾を見渡せる風光明媚の場所にあります。施設内は家庭的な雰囲気や環境で、安心安全に暮らしています。  
 ○法人内での年中行事が多彩で、家族や地域の参加が多く交流の場となっています。  
 ○外出や買い物など利用者と職員と一緒にいる機会を多く持っています。  
 年中行事が活発で、地域の方達との交流を多く持っています。  
 園庭で菜園を楽しむ事ができ、季節の野菜を植えて育てる、収穫した食材を調達したり草花の手入れで心がいやされます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、法人施設敷地内にあるが積極的に地域活動に取り組むと共に市や家族との連携を深め、利用者が地域と繋がりがりながら生活できるよう支援している。また外出の機会を多く取り入れ、地域の人の交流や生きがい支援に繋げている。さらにセンター方式を活用して利用者の「やってみたい事、できる事」を把握し、日々の生活支援に反映させている。また利用者個々の生活環境作りと排せつの自立に向けた支援や入浴支援等、細やかなケアを実践している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は、毎回唱和し周知しているが、事業所の介護理念は策定されて間もないで徐々に行っていく。	法人と地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を職員が意識できるよう居間に掲示して、日々のケアを実践しているが、事業所理念については、全職員への周知や理解を深めるための取り組みが十分でなく浸透するまでには至っていない。	地域密着型サービス事業所の社会的役割や意義について、全職員で話し合う機会を設ける等、事業所理念の理解や共有を図っていくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年中行事の際には、利用者・家族へ外出・外泊を勧め地域との交流ができるようにしている。	事業所は、ハリー等の地域行事へ参加し、管理者が地域でキャラバンメイトの講師を務める等地域の一員として活動している。また利用者地域ミニデイへの参加やボランティアの受け入れ、住民から野菜を差し入れて貰う等地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解する為に、諸君は支援方法を学んでいる。地域の方達へも認知症について理解してもらうようにしている。市の認知症研修会へは、講師として参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催し、家族や地域の方達からの意見やアドバイスを受けてサービス向上につなげている。	会議には、市職員や家族、地域代表者が参加し定期的に開催している。会議では、利用者や活動状況は報告されているがヒヤリハットの報告は行われていない。また、災害対策等については意見交換しているが、外部評価の結果報告や改善に向けての協議が行われていない。	運営推進会議において事業所運営の透明性を図り、外部評価後の結果報告や目標達成計画について協議し、事業所の運営やサービスの質向上に繋げて行く事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議には毎回担当者が参加している。事業所の実情を伝えその都度提案をもらっている。	市担当者には、日頃から電話や窓口を訪ね事業所の実状を伝えると共に生活保護や事故発生時の対応等相談し、適切な助言が得られている。また市担当者からは、各種研修や制度の情報提供や定期的に訪問を受け利用者の状況を確認する等連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケア、その行為を理解するように心がけている。利用者の行動を抑制しない対応をしている。	管理者が法人の身体拘束廃止委員会に参加し、職員も法人の勉強会で身体拘束について共通理解を深めている。マニュアルを整備し、契約時には利用者や家族にリスクの説明を行い、利用者の行動を抑制しないため玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、利用者への虐待が見逃されないように注意し、防止に努めている。		

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例会やミーティング時には、高齢者の虐待についての話題をもつ事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、契約書の説明と疑問点に答え、解約時には次の行き先を支援し決定後に解約はしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族との交流を多く持つようにして意見や要望を伝えやすい環境を作りをしている。行事などに参加した時に、法人内の職員へも相談が出来るような機会をもっている。	利用者の意見や要望は、個別のドライブ時や日々の関わりを通して把握に努めている。家族からは、日常の面会、病院受診、家族会開催時等で直接聞いている。家族から「週1回のドライブ以外に散歩もお願いしたい」等の要望を受け日課や外出支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所での定例会では、意見や要望など運営に関する事を職員から受けて管理者会議などで、提案している。	管理者は、定例会や申し送り時等で職員の意見や要望を聞いている。職員から「休憩時間の確保や夜勤者との交代時間の変更」等の意見を法人へ報告し検討後、職員増や勤務体制の変更に繋ぎ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、規則・規定の見直しを行い職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会は定期的に行われ、研修課題や内容も多彩です。年度末には各事業所で取り組んでいる事例を報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会へ加盟し、研修会や勉強会へ参加し情報交換を行い、サービス向上ができる様にしている。		

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族との関わり方や、思いや希望を聞き、介護職員が意見やアドバイスをケア計画に挙げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族から要望を聞き、家族とともに利用者を支える関係作りに努めている。家族の面会時に、生活の様子を説明し少しずつ慣れて行く様子を伝え安心感を持って頂いた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から意見や要望を聴き、必要としている支援を考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯などは声かけをして、一緒にできるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年中行事には、家族へ外出・外泊を勧め利用者と家族が過ごせる機会を支援している。施設での行事には準備段階から家族の参加を依頼して、家族とともに利用者を支える関係を努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や家族宅への外出や外泊を勧めこれまで通りの関係が続けられるようにしている。旧正月や旧盆、清明祭の時に外出や外泊が行われている。	地域社会での関係性は、利用者本人や家族、地域の人等から情報を把握している。地域の友人がいる出身地域のミニデイへの参加やドライブ、買物時に自宅周辺を訪ねたり、事業所への友人、知人の訪問を受け入れる等関係性が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	買い物や散歩など気の合う利用者同士を把握して、一緒に参加する工夫をしている。地域のミニデイサービスには、利用者同士が声を掛け合い一緒に出掛ける事ができた。		

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去して、施設内の特養に入所しても面会に行っている。退去後も家族の来所がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活に対する思いや希望を把握し確認しあっている。どんな生活がしたいか、毎回確認する事ができた。	センター方式を活用したアセスメントや利用者と日々関わる中で対話を通して「絵や手工芸をしたい」等思いや希望を把握し支援に繋げている。表出が困難な場合は、家族や主治医に聞いたり、利用者の仕草や表情から把握に努め、本人本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を把握する様にしている。入居時には、自宅を訪問して生活環境を詳しく収集するようにした。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身の状態など気づいた事は業務日誌や連絡ノートを通して、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との関わり方や、思いや希望を聞き、介護職員が意見やアドバイスをケア計画に挙げている。	サービス担当者会議には、利用者や家族、担当職員等が参加し、意向を確認して介護計画を作成している。「役に立つ事をやって行きたい」と希望の利用者には本人ができる事を計画に位置づけて支援している。毎月モニタリングを実施し、6か月毎の見直しと状況変化に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の状況を業務日誌に記録、ケア会議で意見交換し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に応じて、通院や往診の対応を行っている。家族が面会時に食事やおやつを一緒に取ったりしている。		

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ミニデイサービスへの参加や法人の行事に出て、地域の方達との交流を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してからも主治医を変える事がなく、これまで通りの関係を続けている。 信頼できる医師と関わりたいとかかりつけ医の変更をした。	利用者は、入居前からのかかりつけ医を受診しているが、要望がある時は相談に応じ変更して支援している。受診は、家族対応としているが困難時は代行している。受診時は、家族や担当医に情報提供を行い、結果は家族と報告し合い共有し、担当医とも文書や電話等で情報交換し連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に素早く対応し、看護職である管理者が対応したり、施設内の看護師の指示で観察や受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院や受診のときは、医療機関へ情報提供、情報交換を行っている。 胃ろう増設が必要なときは、詳しい情報を提供した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時には、重度化した時の対応についてやどのように過ごしたいかを聞いている。 当事業所の方針を説明する事ができた。	重度化に向けた方針は明文化されていないが、入居時や更新時、状態が変化した時に本人や家族と話し合いを行っている。胃ろうから経口摂取が可能になった利用者の受け入れに向け、職員の勉強会や医療機関と連携し、研修等に取り組んでいたが、急変で実現に至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間2回の施設内で、消防署による救急救命講習会に全職員が参加し救命処置を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策訓練、特に消火避難訓練を年2回実施している。うち1回は、夜間を想定して一人夜勤時の訓練を行った。	今年は、1月に市の災害訓練で事業所が地域住民の避難場所となりその受け入れに参加し、事業所としては6月に消防署協力の下、夜間想定避難訓練と消火器の取り扱いを実施している。スプリンクラー等の災害設備は整備されているが備蓄はなく対応マニュアルも見直しが行われていない。	消防や地域住民の協力の下、年2回以上の消防訓練の実施と災害対応マニュアルや備蓄等の確認と整備に取り組んで行くことに期待したい。

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは丁寧に行い、伝わり易いように方言で話す事も心がけている。	外部講師による法人の接遇(言葉かけ、身だしなみ等)研修に職員が参加し、事業所内でも振り返りを行っている。名前の呼び方は、本人や家族の意向を確認し、方言対応が安心する方にはその気持ちを大切にしながら声かけを行っている。個人記録等も事務室で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、納得できるような生活支援をしている。 買い物の希望日や自宅へ帰りたい日を決める事ができた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を聴き、無理強いせずに集団の生活を過ごす事ができるようにしている。体調の変化時には、散歩やドライブには無理に誘わない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれは自信で行う事を基本として、お気に入りの整髪料や鏡アクセサリーなどを揃える事ができた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はメニュー通りにしたり、食べたいものを取り入れたりしている。旬の物や差し入れられた食材で利用して、調理方法を考えり下ごしらえを一緒に行っている。	メニューは法人施設で立案しているが、利用者と食材の買い物や近隣住民からの差し入れ等を活かして3食とも事業所で作っている。利用者は、野菜の下ごしらえや片付け等に参加し、職員と一緒にテーブルを囲み、会話をしながら同じ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量、取り方の状況は全職員が把握出来個別の記録を残している。ミキサー食や状態によってトロミ剤を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、口腔ケアが保たれるように個々に声かけをしながら、歯ブラシやスポンジブラシや本人の指を使って洗う等のケアを行う。		

沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗の原因を観察して、支援の工夫や方法を検討している。	排泄については、2人が自立している。排泄チェック表を活用し、日中は時間毎に声かけし布パンツにパットを併用しトイレでの排泄を支援している。自宅でリハビリパンツ使用時に便器に流す行為の方に布パンツに変更後は改善した事例もある。失敗時は、周囲に配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の解消に向けて、食事の工夫や水分摂取量、運動や腹部マッサージなどを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングを見て、入浴の支援はしている。シャワー浴や浴槽に浸かる事もできるように、浴槽に希望する時は入れるようにしている。	入浴は、毎日や1日2回等、利用者の希望に合わせて支援している。入り口には入浴中の札をかけ異性介助は本人、家族の了解を得て支援しプライバシーに配慮している。入浴を拒否する場合は、無理強いせず時間を置いて声掛けしている。お友達と一緒に入る方やゆず湯等入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大切にして、レクレーション活動や趣味を活かした活動を多く取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について理解し、症状の変化を観察し対応できるような支援をおこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日課に沿って活動したり、本人のペースに合った無理のない生活を送る事ができている。起床時には、数人の利用者でコーヒーを楽しむ事ができる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域ミニデイサービスへの参加やドライブや買い物・散歩に出る機会を多く持つ事が出来て地域の方達や施設の利用者との関わりを持つ事ができた。	日常的に法人敷地内を散歩し、東屋での休憩や花、野菜の水やり等楽しんでいる。日々の買い物や週1回のドライブと月1回の地域ミニデイへと出かけている。季節の花見や外食等、五感刺激の機会となっている。家族の顔が見たいと訴える時は、個別に自宅訪問を支援している。	



沖縄県(グループホームやすらぎの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布も管理が自立できる方は、家族の了承のもとに本人で管理してもらい、好きな時に飲み物や移動販売等で支払いをすることができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望のあるときは、電話の代行や取り次を行っている。年賀状や暑中見舞いを送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体を清潔に保ち、共用の場は季節毎の飾りつけを行い、居室は落ち着いて休めるように家具の配置をしている。	利用者全員が集うことのできる広い居間には、ゆったりと過ごす事ができるようソファが置かれ、季節の飾りや利用者の作品が掲示されている。午前中は窓をあげ換気に努め、テラスではお茶やおしゃべりを楽しめるよう椅子を配置している。和室も備え、着物を着て新年を迎えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用でのフローアでは、ソファを配置して、ゆったりと休む事ができて、畳み間でも足を伸ばして過ごす事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家具調ベットを備えてありますが、これまで使っていたものは、思い通りに使う事ができるようにしている。使いなれた物や家族からのプレゼントを配置している。	居室には備え付けのベッドとタンスがあり、利用者の作品や椅子、家族の写真等が持ち込まれている。家具等は家族と相談して、自宅と同じように配置し、絵を描いたり趣味に活用する台の設置や信仰に配慮したその人らしい居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーとなっており、居室からトイレ・浴室までの動線が短い。食卓や共用のホールから全室見渡すことができ、安全である。		